

社団法人日本新体操連盟

平成 20 年度第 2 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 20 年度第 2 回理事会
2. 日時： 平成 20 年 12 月 17 日(木)13 時 00 分～14 時 30 分
3. 場所： 東京都港区西麻布 3-2-32 「麻布霞会館・202 号室」
4. 構成員現在数： 19 名
5. 出席役員： 二木 英徳（会 長） 朝倉 正昭（副 会 長） 荒井 隆（専務理事）
渡辺 守成（常務理事） 池田真喜子（理 事） 岩本 晃（理 事）
岡 久留実（理 事） 崇島 慎一（理 事） 橋本 千波（理 事）
福本 隆（副 会 長） 石崎 朔子（常務理事） 関田史保子（常務理事）
上村 郁子（理 事） 谷口 裕代（理 事） 谷原 誠（理 事）
藤島八重子（理 事） 山崎 浩子（理 事）
田中 元（監 事）

以上 17 名（うち委任状出席 8 名）

その他監事 1 名（うち委任状出席 1 名）

6. 欠席役員： 高橋 明（副 会 長） 秋山エリカ（理 事） 横田 章（監 事）
以上 3 名

7. 議案：
報告事項
報告事項 1 平成 20 年度開催事業・経過報告(定款第 5 条関連事項)
決議事項
第 1 号議案 財団法人日本体操協会推薦理事について(定款第 5 条関連事項)
第 2 号議案 平成 21・22 年度役員改選について（定款第 4 章関連事項）
第 3 号議案 全日本新体操チャイルド選手権ルールについて
(定款第 5 条関連事項)
第 4 号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

(社)日本新体操連盟・定款第 24 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を岡久留実理事と崇島慎一理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 25 条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて 17 名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、荒井隆専務理事が進行を務めるよう依頼した。

報告事項1 平成 20 年度開催事業・経過報告(定款第 5 条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

①平成 20 年度登録数について

平成 20 年度の登録として

登録クラブ数 560 クラブ(前年比 110%)

登録選手数 8813 人(104%)

登録クラブ総会員数 35532 人(104%)

登録指導者数 1428 人(102%)

登録審判数 1114 人(102%)

の登録数であったことが報告された。

質疑・報告

二木会長より幼児選手数が前年比 79%と減少しているのが気になる旨が指摘された。渡辺常務理事の分析では、幼児を対象とした大会がないため登録がまちまちであること。若年層の人口の減少が関係している恐れがあることが報告され、データを大切に分析し、対応していくことの重要性を確認した。

②第 17 回全日本新体操クラブ選手権について

第 17 回全日本新体操クラブ選手権を

開催日:8 月 29 日から 31 日

開催場所:東京体育館

参加クラブ数:224 クラブ

参加選手数:672 名

にて開催された。

大会では前年度と変更した点がいくつかあった。

まず、参加人数の増加や、進行方法への改善要望があったため、今年度より競技進行方法を変更し、全フロア同時進行とした。この変更に伴う苦情もなく、時短につながったため変更が良かったものと思われる。

大会開催前に FIG より国際年齢の基準に変更の連絡が入り、国際基準のジュニア年齢が 12～15 歳から、13～15 歳へと変更になった。今大会ではエントリーの受付を開始していたため、エントリー年齢の変更は行わなかった。ただし、国際大会である「イオンカップ 2008 世界新体操クラブ選手権」への出場権獲得年齢を変更した。

今大会優勝した「安達新体操クラブ」は 16 歳以上がシニア選手という国際基準の年齢に達していなかったため「イオンカップ 2008」への出場権を獲得できなかった。今大会は「全日本選手権」の関係で 15 歳がシニア・ジュニアを選択して出場するために生じた結果であった。次年度の年齢基準の検討が必要である。

以前より、ジュニア選手の割当種目が毎年「リボン」となっているご意見があったため、次年度より変更する事の案内をしている。よって、次年度より種目に変更となる。

質疑・報告

渡辺常務理事より次年度の割当種目は理事会で決定し、今後クラブ選手権の割当種目は競技部で調整・決定することが提案された。また、今年の問題点として、優勝チームが「イオンカップ」へ出場できない事は問題視すべきであって、国際と国内の年齢基準を検討することが必要であると指摘があった。岡理事より補足として、年齢基準を国際に合わせても問題がないとの意見があり、次年度よりシニア・ジュニア選手ともに国際年齢基準に合わせて調整することが決まった。

③第8回全日本新体操クラブ団体選手権について

第8回全日本新体操クラブ団体選手権を

開催日:9月14日

開催場所:東京体育館

参加クラブ数:114チーム

参加選手数:714名

にて開催された。

事前に今大会への参加チーム数が増えた場合、ジュニアの部において、予選・決勝を行うことになっていたが、チーム数が前回大会に比べ大きく増加しなかったため前回大会同様の開催方法で行った。しかし、時間的なこともあり、以後増加するようであれば、予選・決勝方式を採用する必要がある。

団体選手権ではルール・マナーを守らないチームが多い。今大会では、練習禁止場所にて練習していたチームが体育館スタッフの方に手具をぶつけてしまい怪我をさせてしまった。体育館より厳重注意をされた。警備員などで対応をしていたが、今後さらなる注意を徹底させる必要がある。

質疑・報告

二木会長より、シニアとジュニアの得点結果があまり変わらないため、ルールがどれほど違うのか質問があった。岡理事よりジュニアの方が点数でないルールではあるが、シニアのレベルがそれほど高くないための結果であることが回答された。二木会長はその回答を受け、「クラブ団体選手権」ではレベルアップのため、シニア・ジュニアの区分をなくすことの提案がされた。岡理事、橋本理事よりFIGが選手の発達のため難度を増やさない方向であることなどの情報が提供され、シニア、ジュニアの区分をなくし、ルールをシニアに統一することで検討していくこととなった。

④第9回日本新体操祭について

第9回日本新体操祭を

開催日:10月11日

開催場所:東京体育館

参加クラブ数:50チーム

参加者数:1698名

にて開催された。

今年50チームで開催したが、50チームのために体育館を延長利用しなければならなかった。この延長利用料が高いこと、参加者の拘束時間が長くなることなどにより、今後は40チームにて制限する方向で進めている。

質疑・報告

質疑・報告はなかった。

⑤イオンカップ2008世界新体操クラブ選手権について

イオンカップ2008世界新体操クラブ選手権を

開催日:10月10日から12日

開催場所:東京体育館

参加クラブ数:15カ国16クラブチーム

参加者数:48名

にて開催された。

今大会は、海外チームの要望により、初日に予選4種目、2日目準決勝2種目、3日目決勝2種目で開催した。全日本大会上位の日本チーム(飛行船新体操クラブ)はワイルドカードとして、2日目準決勝から参加した。

予選を4種目で開催したため、10:00から20:00まで競技時間がかかった。1日で予選を開催する場合、参加チームの目安は15チーム前後となる。競技方法については今大会の結果を検討し、今後の開催方法を再検討していく。

質疑・報告

渡辺常務理事よりテレビ放映について、今までの視聴率が低迷していたために、今大会はテレビ局を変え、放送時間帯を変えやれることはやった。しかし関東平均視聴率が 2.9%であったため、問題を洗い出す必要がある。イオンカップの開催はどうか？ 世界選手権との関わりをどうするか？ 強化と普及を合わせて再検討していく事が報告された。

岩本理事よりテレビの視聴率自体、全体的に下がってきており、地方で視聴率が高いところがあるが、地方だと放送局が少ないので比較的視聴率が高くなることが報告された。

渡辺常務理事よりフィギュア、ゴルフなどが良い例で、スター選手が視聴率を上げている。「イオンカップ 2008」の前後の放送を見ると前後とも 6~8%程度の視聴率を獲得しており、「イオンカップ 2008」だけ視聴率が下がった。やはり開催、放映の再検討が必要であることが合わせて報告された。

二木会長より、三重で開催される世界選手権はどのようになっているのか？ また、イオンカップとの関係はどうか質問がされた。渡辺常務理事より2案が提案され、1つは2009年のイオンカップの開催をやめ、三重の世界選手権に協力する。もう1つはフジテレビの要望で6月に開催する。この2つの案で開催ができるかどうか検討することとなった。

決議事項

第1号議案 財団法人日本体操協会推薦理事について(定款第5条関連事項)

議長は説明者として渡辺常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

日本体操協会の役員の任期が2年であり、2009年3月末で任期が終わる。日本新体操連盟では理事への推薦枠を1つもっており、次期理事への推薦理事は今期同様、石崎朔子常務理事を推薦したいと提案があった。

質疑・報告

異議なしとして、石崎朔子常務理事を推薦する事が決定した。

第2号議案 社団法人日本新体操連盟平成 21・22 年度役員改選について

(定款第4章関連事項)

議長は説明者として渡辺常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

日本新体操連盟においても今期の役員が2009年3月末をもって任期満了となる。次期の役員を選考するメンバーとして、二木英徳会長と荒井隆専務理事にお願いしたい。ちなみに役員が決定する会議は3月末に開催予定の総会であることが報告、提案された。

質疑・報告

異議なしとして、二木英徳会長および荒井隆専務理事が選考委員に決定した。

第3号議案 チャイルド選手権ルールについて(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

橋本理事などからルールの変更案を提案されたが、参加する選手らの対応する期間なども考え、第12回大会から変更することで調整し、2009年2月に開催される第11回大会については前回開催の第10回大会同様のルールで開催をお願いしたい。

質疑・報告

参加者の対応期間を考慮し、提案の通り、第11回大会を第10回大会ルール同様に開催することに決定した。

第4号議案 その他

橋本理事よりバジテストの件について提案があり議長の指示のもと、橋本理事は下記内容の説明を行った。

今回新しく改良したバジテスト案を提案したい。詳細は資料にて記載してあるが、グレードが8つあるうちの1から3までの3段階を初心者レベルに、4から8までの5段階を基礎レベルとすること。グレード1から5種目の手具をつかったテストとして実施することの提案がされた。

質疑・報告

池田理事より2007年12月11日開催の理事会にてバジテストの概要が1度決まった。それによると、初心者は5段階、選手が3段階であった。最初のグレード1は姿勢のみで手具の扱いはなかったことが報告された。間口を広げるためにも最初のグレードは小さい子でもテストを受けることができるものにしてはどうかと提案があった。

橋本理事より数字や概要を比べると違いはあるが要望をいただいていたとおり、内容をすごく簡単にしたものである。間口を広げるために、縄跳び何回といった回数で可否を判定するものとしたという内容の説明があった。

渡辺理事より最初に5種目はいかかなものか？ バジテストは全国の人々に興味を持ってもらうものである。5種目を持たなければならないのでは新体操を触ったことがない人には費用の面でもテストを受けづらくなる。徐々に種目を増やすことを提案する。以前決まっていた内容があるのであるから何度も変更は実施のためにはよくないことであるとの意見があった。

崇島理事より5種目から2種目を合格すればよいとする選択性にしてはどうかと提案があった。

二木会長よりクラブに全手具置いてあるならば子供は全部触りたがる。手具には早くに触った方がいい。空手で例えればずっと正拳づきだけでは面白くない。間口を狭めるのか、広めるのか、飛び級をどうするかを決定することが必要であるとの意見があった。

以上の質疑の後池田理事よりバジテストについて事務局で最終案を作成し、再度検討する事が提案され、承認された。

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(5)閉会宣言

議長は他に質問、意見がないことを確認し、理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成20年12月17日

社団法人日本新体操連盟 平成20年度第2回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 岡 久 留 実

同 崇 島 慎 一